

[成果情報名] エンバク極早生品種「スーパーハヤテ隼」および「ウルトラハヤテ韋駄天」の品種特性

[要 約] 「スーパーハヤテ隼」および「ウルトラハヤテ韋駄天」は、乾物収量に優れている。

[部 署] 山形県農業総合研究センター畜産試験場・草地環境部

[連絡先] TEL 0233-23-8817

[成果区分] 普

[キーワード] 牧草、エンバク、収量性、極早生

[背景・ねらい]

エンバクは他のムギ類に比べ越冬性が低いが、環境適応性に優れ、ムギ類の中では耐湿性が高い草種である。また、播種から約2か月で収穫できることから、二毛作の前作物としての利用も期待できる。エンバク極早生品種について本県における適応性を調査・検討し有望品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

エンバク極早生品種「スーパーハヤテ隼」および「ウルトラハヤテ韋駄天」の生育特性は次のとおりである。

- 1 乾物収量は、3年間平均で「スーパーハヤテ隼」「ウルトラハヤテ韋駄天」が「ウエスト（極早生標準品種・県有望品種）」に比べてそれぞれ20%、16%多収である（表1）。
- 2 出穂期はいずれも「ウエスト」より2日早い（表2）。
- 3 6月上旬には出穂期となり収穫可能となることから、早晚性を考慮して後作物と組み合わせることにより、二毛作の前作物として利用可能である。

[成果の活用面・留意点]

- 1 栽培方法は、山形県飼料作物栽培指針に準ずる。
- 2 試験における栽培概要は以下のとおり。

播種日および収穫日

	播種日	収穫日
平成29年	4月28日	6月19日
平成30年	4月23日	6月13日
平成31年	4月23日	6月10日

播種量：条播（条間 30 cm）800g/a

施肥量：堆肥 200kg/a、粒状苦土石灰 20 kg/a、基肥として N、P₂O₅、K₂O を各 0.8 kg/a

[具体的なデータ]

表1 収量調査結果(各年および3カ年平均)

品種		草 丈	生草収量		乾 物 率	乾物収量	
		(cm)	(kg/10a)	標準比	(%)	(kg/10a)	標準比
スーパーハヤテ隼	29年	105.8	2,947	116	14.3	422.2	120
	30年	95.3	1,961	115	18.9	371.0	120
	元年	80.5	1,630	102	18.3	298.7 a	119
	3カ年平均	93.9	2,179	112	16.7	364.0	120
ウルトラハヤテ韋駄天	29年	90.4	2,350	92	16.5	388.5	110
	30年	77.0	1,717	101	21.5	368.9	119
	元年	81.9	1,618	101	18.5	298.7 a	119
	3カ年平均	83.1	1,895	97	18.6 a	352.0	116
ウエスト(標準)	29年	103.7	2,548	-	13.8	352.7	-
	30年	72.7	1,702	-	18.2	309.3	-
	元年	68.2	1,600	-	15.7	250.9 b	-
	3カ年平均	81.5	1,950	-	15.6 b	304.3	-

※年度ごとに異符号間に有意差あり(p<0.05)

表2 生育調査結果(3カ年平均)

調査項目	発芽の良否	初期生育	出穂期
評価単位	1~9	1~9	
スーパーハヤテ隼	8.3	6.4	6月5日
ウルトラハヤテ韋駄天	8.7	6.8	6月5日
ウエスト(標準)	7.3	5.6	6月7日

※ 極不良を1、極良を9とする評点法

※ いずれの年も倒伏の発生は無かった。

[その他]

研究課題名：飼料作物優良品種選定調査

予算区分：県単

研究期間：令和元年度（平成28年度～令和元年度）

研究担当者：樋田 剛、秋葉 浩一、菅 和寛

発表論文等：なし